

外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会

ニュースレター

第 13 号

2010年8月1日発行

[事務局]〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 日本キリスト教会館 52号室

[編集] 在日韓国人問題研究所 (RAIK)

☎03-3203-7575 FAX: 03-3202-4977 E-mail: raik@abox5.so-net.ne.jp

郵便振替: 00190-4-119379 口座名称: 外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会

ホームページ: <http://www.gaikikyo.jp> (近日開設)

日・韓・在日キリスト者共同宣言

真実・記憶・未来への協働

「神は、キリストを通してわたしたちをご自分と和解させ、また和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。」(Ⅱコリント5:18)

日本が強制的に韓国を「併合」して100年を経た。いま、わたしたち日・韓・在日の教会は、未来への協働のために「和解」を必要としている。「和解」は、神のみこころ、招き、祝福された任務。「和解」は、真相をたずね、真実を記憶し、手を取り合おうとする者たちに届けられる神の恵み。それゆえ、わたしたちは記憶する。未来への協働のために。

わたしたちは記憶する。植民地支配がもたらしたあらゆる暴虐と、そこで生み出された贖いようのない苦しみを。

わたしたちは記憶する。植民地支配が歴史と人間に彫りつけた傷の痛み、そしてぬぐいようのない憎しみを。

わたしたちは記憶する。植民地支配の遺した差別と分断の年月を。世代を重ねてなお、回復されない尊厳、もたらされない統一への嘆きと渇きを。

しかし、わたしたちは記憶する。これらすべての暗闇の淵に十字架は立ち、キリストは苦しみの中から赦しと和解を成し遂げられたことを。

わたしたちは記憶する。植民地支配の犠牲となった教会と、自らの罪過を悔い改める教会が、神の御心と召しの中で出会い、民の自由と虐げられている人々の尊厳のために、手をたずさえ合うことへと導かれたことを。わたしたちが、神の国とその義を映し、未来を拓く兄弟姉妹として、ふたたび結び合わされたことを。よみがえりの主、和解の主、キリストに、わたしたちが結び合わされたことを。

それゆえ、わたしたちは決意する。神と隣人と未来の前に立ち、赦しと憐れみを乞いつつ、わたしたちは宣言する。

神ならぬものへの追従、暴力による支配、富や性の貪り、あらゆる差別。わたしたちは、これらに与しない。これらと闘う兄弟姉妹となる。誠実な記憶の営みと、闘いと、交わりの中で、わたしたちは自らの生を培い、人を育くむ。わたしたちは、未来のために真実を記憶し、共に祈り、共に生きる。わたしたちは、和解の福音にあずかり、和解のために奉仕する新しい民である。

主よ、わたしたちを導きたまえ。御国を来たらせたまえ。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」(Ⅱコリント5：17)

「未来への協働」日・韓・在日キリスト者の決意

私たち日・韓・在日キリスト者は今年、各教派・団体、各教会において、「韓国強制併合」100年／「在日」100年を覚えて、共に祈りを合わせます。私たちは、日本社会、韓国社会、アジアと世界に向けて、私たちの悔い改め、和解と共生への願いを発信していきます。

1. 歴史の検証

日本の教会とキリスト者は、みずからの教派・団体が、日本の植民地支配にどう関わったのか、あるいは、なぜ沈黙してしまったのか、そしてそのことについて、戦後の宣教論・伝道論においてどのように検証されたのか／検証されなかったのかを、具体的に、厳しく問うことから始めます。なぜなら、日本の教会とキリスト者は、戦前も戦後も、国家の植民地主義、自民族中心主義から自由ではなかったからです。

2. 朝鮮半島の分断と日本

日本の教会とキリスト者は、1945年から始まる朝鮮半島の分断が、日本の植民地支配に関わる歴史的要因から生じたこと、さらに戦後において朝鮮戦争特需など、日本は朝鮮半島分断から経済的利益を得てきたことを強く認識します。

日本の教会とキリスト者は、韓国教会をはじめ、在日韓国教会など海外韓国教会の「平和統一」に向けた取り組みを全面的に支持し、連帯していきます。

3. 植民地主義、人種主義の克服

私たち日・韓・在日キリスト者は、植民地主義、人種主義に対峙しながら、さまざまな国籍の、さまざまな文化の、さまざまな人びとに開かれた教会、共に生き共に生かし合う教会の形成をめざします。

4. 共同プログラム

私たち日・韓・在日キリスト者は、各教派・団体、各教会において、日・韓・在日教会の「出会い」と「交流／対論」「分かち合い」のプログラムを、さらに推し進めます。とくに、21世紀を生きる青年たち、子どもたちの「学び合う」プログラムを、共同で行っていきます。

私たちは、教会学校、キリスト教学校での歴史教育、平和教育、人権教育をより豊かにするために、カリキュラム・教材の研究・作成を共同で行っていきます。

5. 日本政府・国会への要請

私たち日・韓・在日キリスト者は、「韓国強制併合」100年／「在日」100年にあたり、次のことを日本の政府と国会に対して、強く求めます。

- (1) 国会は、1904年日韓協約から1910年韓国併合条約に至る一連の諸条約が不法・不当であったことを認めるとともに、植民地支配の罪責を謝罪する決議をすること。
- (2) 国会と政府は、関東大震災時の朝鮮人虐殺、朝鮮人強制連行・強制労働、日本軍性奴隷とされた慰安婦など、「朝鮮半島の植民地犯罪」について、「真実と和解委員会」を設けること、そして、その当事者・遺族

に対する補償法の立法と実施を、すみやかに行なうこと。

- (3) 国会と政府は、在日韓国・朝鮮人など旧植民地出身者とその子孫に対して、無条件の永住権と、国際人権条約が定める民族的マイノリティとしての地位と権利を保障する「旧植民地出身者の法的地位と権利に関する基本法」を制定し、実施すること。また、すべての外国籍住民の人権保障のために「外国人住民基本法」を、排外主義・人種主義を根絶するために「人種差別撤廃法」を制定し、実施すること。
- (4) 政府は、歴史の清算と和解に向けて、日朝国交正常化交渉を粘り強く進め、朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）との国交を実現すること。
- (5) 政府は、植民地主義を克服し東アジアの和解と平和を実現するための歴史教育を、学校教育、社会教育において実施すること。

2010年7月6日

「韓国併合」100年／「在日」100年 日・韓・在日教会シンポジウム 参加者一同
「韓国併合」100年／「在日」100年 日・韓・在日キリスト者共同集会 参加者一同
外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会

◇2010年7月5～6日、「外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会」（外キ協）が呼びかけて
在日本韓国YMCAで日・韓・在日教会シンポジウムを開催した。

「真実・記憶・未来への協働——『韓国併合』100年／『在日』100年から」という主題の下、

「韓国基督教教会協議会正義と平和委員会」から4人、

「韓国カトリック司教会議正義と平和委員会」から2人、

「在日大韓基督教会」から11人、日本教会から35人が参加した。

◇谷大二さん（日本カトリック難民移住移動者委員会委員長）の開会礼拝、

「『韓国併合』100年／『在日』100年を記憶し、未来への協働を考える」と題した基調報告、

権五成さん（韓国基督教教会協議会総務）の発題「日帝強占100以後の経験と課題」、

関田寛雄さん（青山学院大学名誉教授）の発題「韓国強制併合100年とキリストの教会」、

金性済さん（在日大韓名古屋教会牧師）「荒れ野の記憶と約束」を受けて、

今後の日・韓・在日教会の「共同課題」について協議した。

鄭明基さん（韓国基督教教会協議会正義と平和委員会）による閉会礼拝をもって終えた。

◇そして7月6日夜、日・韓・在日キリスト者共同集会を開催し、上記の共同宣言を採択した。

各地外キ連&各教派・団体の**2010**年活動計画

◇2010年7月5日、日・韓・在日教会シンポジウムに先立って開かれた外キ協全国運営委員会において、各地外キ連、各教派・団体から「2010年活動計画」が報告された。

北海道外キ連

〔主催行事〕

①韓国併合100年にあたっての集会

集会タイトル：「韓国併合」ってなあに？——若者と共に東アジアの平和を考える／日程：8月22日／場所：北海道クリスチャンセンター

※集会コンセプト：若者たちへ韓国併合から100年の歴史を伝えると共に、若者たちと共にこれからの東アジアの平和についての展望について共に考える。各教派の青年グループ、中・高・大学（特にキリスト教主義学校）の関連活動、課題を共有する市民グループの青年層、在日の活動グループの青年層などに、広く呼びかけ、若者中心の集会を実現する。

※期待：問題意識を共有すると共に、出会いの場を通じて「共生」「東アジアの平和」に関心を持つグループ・若者のネットワークの構築と今後の活動への展開。

②秋季キャラバン

期間：9月8～10日／開催地：9・8カトリック北見教会、9・9日本キリスト教会遠軽教会／講師：イム・ピョンテク氏

※例年夏季に実施しているが、今年度は①の集会を実施するため、秋季に移動した。

〔協賛活動〕

◎「札幌キリスト教連合会 共生を考える委員会」
「日本の戦後責任を清算するために行動する会」
「強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム」など、諸団体との連携を深め、協働の行動を進める。

◎「韓国併合100年にあたって東アジアの平和を

考える」集会への協働

6月18日、札幌キリスト教会（聖公会）を会場に、李在禎氏（イ・ジェジョン／国民参与党代表・元 韓国統一部長官・聖公会司祭）を招いて開催され、約280名の参加者を得た。 ●大町信也

神奈川外キ連

1. 神奈川外キ連第15回総会

会場：日本聖公会横浜聖アンデレ教会／3月6日
／テーマ：「『韓国併合』100年にあたって反省と前進」、講師：笹川紀勝氏

2. 第15回神奈川の渡日者の足跡を訪ねるツアー 厚木飛行場周辺／5月4日

3. 8・15集会

テーマ：沖縄について／講師：島田善次氏／8月12日

4. 在日大韓基督教会横浜教会との交流会

日本キリスト教会横浜長老教会／8月末

5. 「横浜国際フェスタ 2010」参加・ブース出展 10月半ば

6. 年間重点支援団体：「信愛塾」（横浜市内）

7. かながわ多文化共生推進ネットワーク（仮称） での協働

8. ニュースレター発行（第40便～）

●木村治男

関西代表者会議・関西外キ連

1. 全国協議会受け入れと全国集会開催

昨年度の全国協議会の決定に従い、1月28～30日の全国協議会をKCCで、1月30日の全国集会

をカトリック聖マリア大聖堂で行った。全国協議会には関西代表者会議と関西外キ連から7人が参加した。また、1月28日の公開セミナーへの参加を呼びかけ、関西から15人の参加があった。全国集会は200人の参加者があり、第一部礼拝、第二部集会（講師：武者小路公秀さん）、第三部交流会、それぞれが有意義であった。

全国集会には草の根右翼が抗議に来るというかつてない出来事があったが、それに対応する過程で、予期せぬ支援者も現れた。

2. 関西代表者会議 25周年記念集会

今年は「外登法問題と取り組む関西キリスト教代表者会議」の結成25周年にあたる。これを記念して7月19日に日本聖公会大阪城南キリスト教会で記念集会を開催した。今回は、代表者会議を構成する各教派の代表から、「共生社会」の実現に向けたこれまでの取り組みと、その背景にある福音理解についてそれぞれ発表していただき、それを参加者との議論を通して深めていくというシンポジウム形式で行った。

3. 「韓国併合100年」日・韓・在日教会シンポジウムへの参与

シンポジウムには関西代表者会議と関西外キ連から2名ずつ参加した。今回の成果を関西に持ち帰り、各教会に広めたい。

4. 「外国人住民基本法」国会請願署名

今年の全国協議会で話し合われたように、8月を署名強化月間として例年以上の成果を上げたい。

5. その他

入管法、入管特例法、住民基本台帳法の改定が持つ問題について、在日大韓基督教会関西地方会社会部主催の人権講座が6月20日に行なわれた。各教派のこういった学習会に積極的に協力していきたい。

また、第3回「多文化・多民族共生」青年の旅に、関西から4名の参加者がある。この青年たちや、関西で集まり出しているエキュメニカルな青年グループのNCC関西青年協議会準備会とも協力し、後継者の育成にも力を注ぎたい。 ●金成元

広島外キ連

2010年度も外キ協活動計画に従って、毎月定例会を持ちながら、地域の教会・市民団体と連帯して活動を展開している。

広島外キ連が今年結成して20周年を迎え、6月27日、広島カトリック会館多目的ホールにおいて、「隣人と共に生きる——広島外キ連20年の歩みをふりかえって」というテーマで集会を持った。土井桂子さん、肥塚倭司さん、バブ・マックウィリアムスさんの3人の方にそれぞれ発題をしていただき、その後、全体協議の時をもった。この時期は毎年学習会を持っていたが、学習会とは違った意見交換もなされ、自分たちの活動をもう一度振り返り、これからの活動に良き示唆を与えるものとなった。また、「青年の旅2010」への人材派遣と募金活動も行っている。

そして、詳細は未定だが、10月に「外国人住民基本法の制定を求める全国キャンペーン2010・広島集会」を開催予定。また、通年活動として「外国人住民基本法」の制定を求める国会請願署名の呼びかけを行っている。

その他の協力活動として、以下箇条書きにする。

- * 廿日市市の外国人支援市民活動「ええじゃん(Asian)」に協力。
- * 「中国人強制連行・西松建設裁判(07年4月27日最高裁敗訴)を支援する会」「和解勧告の実現を支援する会」の活動に協力。
- * 第2次不二越強制連行・強制労働訴訟の支援協力。
- * 第10回広島の「在日」を考える集い実行委員会・集会(7月10日)に参加・協力。
- * 第21回全国キリスト教学校人権教育セミナー(8月9~11日、広島女学院)に協力。
- * 国際結婚をした女性の離婚調停・裁判を支援。

●中江洋一

九州・山口外キ連

1. 定例祈禱会・学習会

日時：毎月第3木曜日 19~21時 / 場所：西南KCC / 参加者：4~8人（日本基督教団、在日大

韓教会、その他) / 学習会: 『だれにも故郷はあるものだ』 徐勝著

2. 「外基法」制定を求めるキャラバン

◇1月18~20日、在日大韓沖繩教会、沖繩キリスト教センターぎのわんセミナーハウス

◇7月15日、日本基督教団緑橋教会(宇部市)、長生炭坑現場研修(宇部市)

3. NO MORE 倭乱集会 (⇒12 ページ参照)

7月18~20日、釜山・忠列祠

4. 北九州・筑豊現場研修会

◇6月22日、韓国基督教長老会「長老研修会」83名

◇6月28~29日、韓国教会女性指導者・全国女性連合会「平和と歴史の旅」32名

◇7月30~31日、外キ協「青年の旅」9名

◇8月23~27日、韓国教会「在日同胞苦難の現場訪問」、釜山地域から20名

5. 崔昌華記念北九州人権集会

2月7日、「外国籍住民の地方参政権そして居住権、これからの人権状況を考える」、講師: 崔聖植氏

●朱文洪

①難民保護等に関わるアムネスティ制度の学習会

②改定入管法関係の問題、政府への提言を検討する。

③日韓併合100年関連行事

④ホームレス問題に取り組んでいる人々の集会

以下のグループとの連携をはかる

・「なんみんフォーラム(旧レフュジーカウンスルシヤパン)」

・「難民・移住労働者問題キリスト教連絡会」

・「移住労働者と連帯する全国ネットワーク」

・「外国人入籍基本法連絡会」

・「人種差別撤廃 NGO ネットワーク」

●石川治子

NCC 在日外国人の人権委員会

①日本と朝鮮半島の過去と現在を共に考えるセミナー

日時: 8月20日 / 場所: 日本キリスト教会館 4F 会議室 / 講演会: 「在日として今を生きる」、講師: 裴重度氏 (在日大韓基督教会川崎教会長老・前川崎市ふれあい館長)

②人権委員会1泊委員会研修会

日時: 9月23日 / 場所: 在日本韓国 YMCA 開会礼拝: 河合達雄 / 日・韓・在日シンポジウム報告、委員会のこれまでと今後のあり方: 麻生和子 / 朝鮮とキリスト教(含む日本の天皇制): 飛田雄一 / 滞日フィリピン人支援の立場から: カパティランのスタッフ

●麻生和子

カトリック

難民移住移動者委員会が、以下の課題に取り組む予定です。

・世界難民移住移動者の日…… 9月26日(日) メッセージ・ポスター・募金・祈り

・2010年度全国研修会……新潟教区にて10月25~27日に開催予定

・教会管区別セミナー……東京管区 / 大阪管区 / 長崎管区において開催予定

・船員司牧全国会議

・船員の日…… 7月11日(日) ポスター・メッセージ・祈り

・船員司牧研修会

・人身取引問題

・移民映画祭2010

・「ファックスニュース」毎月発行、12月はクリスマス特別号発行

・2010年度の優先課題

日本聖公会

1. 「韓国併合」100年関係

(1) 第58(定期)総会(5月25~27日)での人権の学び

『韓国併合』100年・キリスト教・『在日』の人権、講師: 李省展(イ・ソンジョン)氏

(2) 「韓国併合」100年に関する主教会声明発表(8月22日予定)

(3) 日韓の歴史を学ぶ会(9月26日開催予定)

講演会「日韓併合100年」、講師: 尹健次(ユン・

コンチャ) 氏、関東三教区(北関東・東京・横浜) 生野委員会主催

(4) 日韓併合 100 年を学ぶ旅(11 月 11~15 日予定)、正義と平和委員会・日韓協働プロジェクト主催

2. その他の日韓協働プログラム

(1) 大韓聖公会社会宣教の旅(6 月 7~11 日)、太田教区の施設や地域の状況を見学。正義と平和委員会・日韓協働プロジェクト主催。

(2) 日韓聖公会合同主教会(6 月 28 日~7 月 1 日)、済州島。

(3) 日韓聖公会青年交流セミナー(8 月 11~16 日開催予定)、今年は日本(長崎)で開催。青年委員会主催。

(4) TOP I K(北朝鮮への人道支援プログラム): Toward Peace In Korea。ミルクと練炭による支援。

(5) 大韓聖公会からの教役者の派遣。現在、19 名が日本聖公会の各教区で働いている。

3. 外キ協・外キ連の活動

それぞれの教区が外キ連で活動しているが、関東地区では、関東外キ連・神奈川外キ連の協働でカパティラン・フェスタ(5 月 22 日)と聖公会神学院寮祭(6 月 5 日)にブース出展。今後も機会があれば出展する。 ●小山俊雄(代理報告)

日本バプテスト連盟

2010 年度を「韓国強制併合 100 年」を憶える年として過ごしています。

①6 月 1 日、連盟理事会の初日に、「韓国併合 100 年」シンポジウムを開催

②日本バプテスト連盟理事会のもとに、「韓国強制併合 100 年」プロジェクト、タスクチーム編成(タスクチーム: 理事 2 名、日韓委員会 2 名、計 4 名)。a. 理事会声明案の起草。b. 8 月の平和月間に「韓国併合 100 年」を憶える呼びかけポスターと、学習資料の提出(『歴史をひらくとき』300 冊購入)

③9 月 13~17 日、「韓国併合 100 年」を心に刻む旅(韓国訪問)、15 名~20 名(現在募集中)

④11 月、日本バプテスト連盟総会にて「韓国併合 100 年にあたっての悔い改めと決意」の採択(理事会提案にて審議)

⑤2011 年 2 月、筑豊にて日韓・在日連帯特別委員会の主催で、苦難の現場訪問ツアー開催予定

●吉高 叶

日本キリスト教会

韓国強制併合 100 年という節目の年を迎えるにあたって、委員 5 名・協力者 2 名で構成される人権委員会がまず行ったことは「韓国強制併合 100 年と日本のキリスト教」というテーマでの学習会であった。ここでの学びを『人権ニュース』を通して全教会に伝えると共に、10 月に開かれる予定の第 60 回大会記念シンポジウム「歴史の共有と展開——韓国強制併合 100 年を踏まえて」の備えとなるような文書を全教会に配布することとした。また人権委員の一人が講師となり、韓国強制併合 100 年をテーマとした修養会や学習会で講演した(4 月 29 日: 北海道北地区全体修養会、7 月 23 日: 東京中会第 1 回靖国問題学習会)。

戦後補償に関わる問題としては、日本軍「慰安婦」問題と取り組む会が 2009 年 11 月 3 日に「日本軍『慰安婦』問題の立法解決をめざして——人類の視点からとりくむ人権問題」という主題で、2010 年 4 月 29 日に「戦争が終わる時、その歴史が始まる——過去をいかに記憶し、想起するか」という主題で、それぞれ学習会を行った(93 名出席、242 名出席)。

その他、「『高校無償化』制度から朝鮮学校を排除しないための要請書」を内閣総理大臣と文部科学大臣宛へ送付したり、「朝鮮学校への差別なき速やかな『高校無償化』適用を求める署名」を全教会に呼びかけるなどした。

「日本基督教団離脱によって戦前戦中の罪責は清算された」と見なすのではなく、戦前・戦中から今日に至るまで未だに教会内に根強く残っている誤りや問題を課題を多く含んだ宣教論を正し、神と隣人に仕え、豊かな交わりをなしていく教会を目指すことが日本キリスト教会の課題である。 ●中家 盾

第19回「NO MORE 倭乱 in 釜山」(2010.7.18~20) 基調報告

1991年12月、豊臣秀吉の朝鮮侵略から400年を迎えようとするとき、私たちは、崔昌華先生(95年2月に逝去)の呼びかけで、名護屋城址で抗議集会を持ちました。「もし豊臣秀吉の朝鮮侵略を本当に反省していたら、近代日本の侵略史はなかったのではないか」との崔先生の鋭い指摘は、秀吉の朝鮮侵略の実相を正しく知ること、近代・現在の問題のなかでそれを考えるように促してくれます。このことから、今、私たちはこの集会の目的を次のように考えています。

- ①日本人の根底にある朝鮮征伐史観と朝鮮・アジアべつ視観の克服
- ②秀吉の朝鮮侵略を美化し、近代天皇制国家による侵略戦争と植民地支配正当化への抗議。
- ③在日韓国・朝鮮人への根強い差別や排外政策への抗議。
- ④強制連行や軍隊慰安婦などへの謝罪も戦後補償もしないことへの抗議。
- ⑤歴史歪曲への抗議と正しい歴史認識を追求する。
- ⑥日本人の被害意識の克服と加害者としての責任と強者の論理からの解放を目指す。

これまで名護屋城址で10回、韓国の壬辰倭乱の跡地として、釜山、晋州、蔚山、宣寧、再び釜山、麗水、友鹿洞、鎮海、南原で開きました。「朝鮮の歴史は日本の歴史の真実を映し出す鏡」として、真実な歴史を教えられるとともに、韓国の方々との交流を通して、現代の問題(例えば独島問題など)も話し合ってきました。

日本は日清戦争を皮切りに侵略戦争を繰り返し、アジア諸国に対して暴虐の限りを尽くしたあげく敗戦しました。この最大の原因は、一貫した朝鮮侵略にあります。文化交流はあっても侵略の反省や朝鮮征伐史観の克服をせず、むしろ秀吉の朝鮮侵略を美化し利用した結果、もっと大規模で悲惨な事態を招いたのです。文化やスポーツの交流は大切ですが、正しい歴史認識を持つことの重要性を歴史は教えてくれています。しかし、残念ながら今なお日本の状況は、そうではありません。

日本は、百年前に隣国に対して侮辱的な「併合」という名の条約を強制し、朝鮮総督府を朝鮮王宮の正面に設置して、憲兵警察による武力統治を強行しました。このため朝鮮の人たちに表現できない塗炭の苦しみを与えました。その歴史事実を痛切な思いで反省しつつ、日本においてこの事実を歪曲し、憂慮する道を画策している今日の動きを警戒しています。すでに15年前に、「韓国併合」は「自由な意思にもとづく条約ではなかった」ことを政府は公式に表明し、政治的・道義的には誤りだと謝罪しました。しかし、「併合条約は、法的には合法、有効」との態度を今も取り続けています。

65年前、ポツダム宣言を受諾し、日本国憲法を制定したのは、そこに闇の力と暗い思惑や駆け引きの動きがあったにせよ、単に連合国の圧力に屈したためではなく、言い尽くせない惨状と破壊と廃墟を前に、歴史からのきびしい審判を、恐れをもって受け留めたからです。ポツダム宣言を受諾し、朝鮮の独立を認めた事実から、「併合条約」が「合法であるかどうか」という論議は起こるはずもないし、日韓関係の根本的な改善のために、一日も早く植民地正当化の妄想を捨てるべきです。

そのために、韓国併合に至るまでの日韓議定書の強要、保護条約を含む3次にわたる日韓協約の強要によって、外交権、内政権の強奪と義兵を含む朝鮮民族の総力を挙げての、日本侵略に対する抵抗の歴史事実を率直に認めること。とくに敗戦直後から、政府自らが、ポツダム宣言批判と植民地支配正当化のために歴史を歪曲して作成し、戦後の韓国・朝鮮政策の基礎として、日韓交渉のよりどころともなり、今なお後を絶たない「妄言」のよりどころともなっている、外務省の秘密文書を公開し、破棄することをここに要求するものである。

2010年7月19日

第19回「NO MORE 倭乱 in 釜山」実行委員会

第3回「青年の旅」出発する

多文化・多民族共生キリスト者青年現場研修プログラムは、日本教会と在日教会から9人が参加。

7月30日から8月6日にかけて、西南KCC⇒筑豊⇒関釜フェリー⇒釜山チョウンナム教会⇒

釜山近代歴史博物館・民主公園⇒陝川原爆被害者福祉会館、原爆被害者協会陝川支部⇒

スゴ里“美しい村共同体”⇒ナムの家⇒「韓国併合100年」日・韓・在日キリスト青年祈祷会⇒

西大門刑務所記念館⇒水曜デモに参加⇒仁川の外国人労働者センター、華僑教会⇒

釜山の外国人勤労者宣教会⇒関釜フェリー⇒下関港到着……とまわる。